

JCD

Kansai

2023.3.Vol.78



SEN MU

無線制御システム Wireless Addressable Lighting Control

かんたん制御

安定通信

かんたん施工

システム対応照明器具が
約1,500点



DAIKOホームページ
SENMU特設サイト

新しくSENMUに ランプタイプが追加!!

ランプタイプのなど新製品が追加、
長形ベースライトも調色・調光が可能に

SENMU専用
ランプシリーズ



ランプを交換するだけで簡単に
無線制御システムが導入可能です!!



線をなくすと色々つながる
[SENMU] 専用カタログ

約1500点のアイテム / システム機器11点を含む新製品335点掲載



NEW
[SENMU] パンフレット

ランプタイプ・長形ベースライトのなど新製品掲載

大光電機株式会社
本社/Tel.(06)6222-6240 Fax.(06)6222-6252
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-2-7高麗橋ビル

DAIKO
https://www.lighting-daiko.co.jp



2023.3 Vol.78

(一社)日本商環境デザイン協会 関西支部
JCD kansai 2023年3月 第78号



[表紙・水彩画]
「旧恵美須町駅風景」
評議員 白井 進

報告

JCD関西支部活動報告

JCD60周年イベント「そもそも大阪デザインってなんやねん」——— 中村 裕輔 02

特集

日本空間デザイン賞2022

日本空間デザイン賞 KUKAN OF THE YEAR / 日本経済新聞社賞2022

「route to root - retracing the story of down. -」「おそいおそいおそい詩」「上勝ゼロ・ウェストセンター」の3作品に決定

審査員選評・受賞作品紹介(グランプリ・金賞)——— 04

特集

JCDプロダクトオブザイヤー2022

上位4製品及び理事長審査評——— 窪田 茂 08

連載

Working Now

新入会員紹介——— 盛 世匡 09

林野 友紀 09

報告

委員会活動報告

2022 JCD kansai クリスマスイベント お久しぶりのメリークリスマス!! ——— 齊藤 俊二 10

第14回大阪市あきないグランプリ ——— 山田 悦央 12

空間プロデュース展2023 ——— 東 純一郎 13

2023年 3月号 vol.78 令和5年3月発行

【発行元】(一社)日本商環境デザイン協会 関西支部 〒541-0055 大阪市中央区船場中央1-3-2-101 船場センタービル2号館1階 (一財)大阪デザインセンター内 TEL.06-6265-2260 FAX.06-6265-2270

総括委員長/齊藤 俊二 広報委員会:委員長/中山 拓 村田 みどり 制作:グラフィックアーツ ベルテ

JCD60周年イベント「そもそも大阪デザインってなんやねん」 関西支部 支部長 中村 裕輔

1961年に日本店舗設計家協会として創立されたJCDですが、2021年に60周年を迎えました。これを祝して本部と各10支部の足並みをそろえて記念イベントを開催する運びとなりました。しかしコロナ禍の真ただ中でリアル開催の可能性を探りながら本部支部共に開催時期を模索しました。結果、やはり感染者数の多い東京本部と東京支部が開催時期をずらして翌年の2022年の初頭にリモート主体で開催しました。

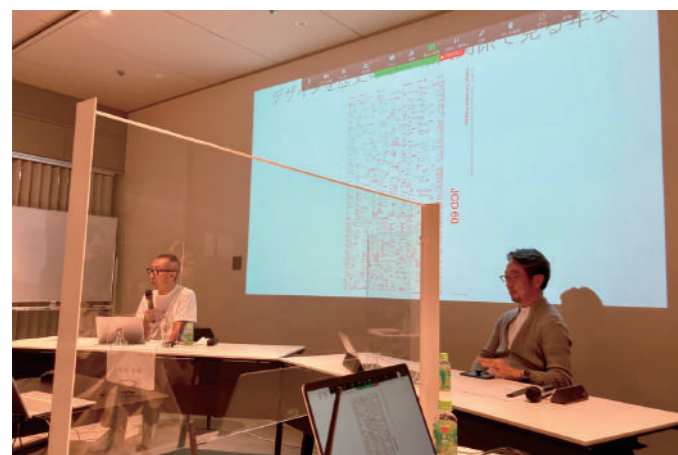
そんな状況の中、関西支部は記念パーティを含めたリアル開催を必須とし、粘りに粘りましたが秋を前についに断念。10月のリモート開催に踏み切りました。

さて前段が長くなりましたが、先ずイベントのスタートは本部から応援に駆けつけてくれた窪田理事長と飯島理事によるJCDの取り組みと歴史の紹介。初めて聞く人も多い内容で、スタッフも興味深く聞き入っていました。そして本題のイベントの内容は正しくタイトル通りで「そもそも大阪デザインってなんやねん?」。かつて「文化視点での大阪」の題材は数多く見受けられましたがデザイン視点では恐らく初の試み。大阪の歴史や風

日時：2022年10月5日(水) 19:00～21:00
 場所：大阪デザインセンター
 参加者数：約50名(WEB参加・会場参加15名含む)
 コメンテーター：窪田 茂、飯島 直樹、中村 裕輔、東 潤一郎、白井 進、鍵谷 啓太、齊藤 俊二、高橋 健太、倉知 優歌、栗元 奈緒子
 モデレーター：岡部 清一
 ナレーター：白木 ナツコ(ひまわりカンパニー)

土、気質など様々な観点から「大阪らしさ」を探り出しました。大大阪、食いだおれ、五代友厚、織田作之助、モダニズム建築、百貨店etc...ヒントになるキーワードは数多くでしたが、しかし、結果的にこれが「大阪のデザインや!」という答えは今回はありません。これを機会に皆が意識して考えていくことが最も重要と思っています。

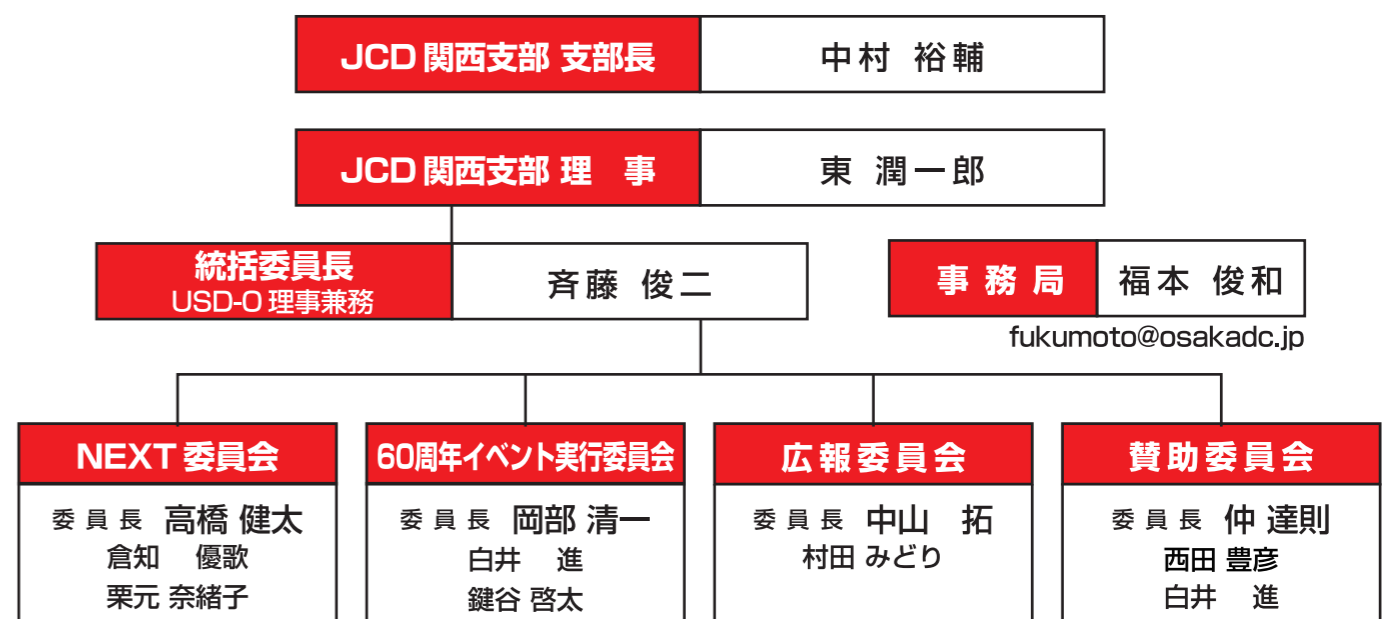
また、これは大阪を題材にとりあげていますが、実は大阪だけのことではなく昨今スポットが充てられている地域の活性化を盛り上げるエリアのデザインに繋がる内容かと思っています。



ナレーターの白木 ナツコさん



2022年度 (一社)日本商環境デザイン協会・関西支部 組織表



KUKAN OF THE YEAR 日本経済新聞社賞「route to root - retracing the story of down. -」
「おそいおそいおそい詩」「上勝ゼロ・ウェイストセンター」の3作品に決定

審査員選評 審査委員長 鈴木恵千代

日本空間デザイン賞2022 審査会を終え、改めて空間デザインの今を感じた。

さまざまな空間デザインの中に多くの人々が集い、新しい体験を共有している様には、時代と共にある空間デザインの魅力を感じると同時に、このような数々の作品の審査運営を行ってきたアワード委員会の皆さんや最終審査員の方々の努力により、今年も優れた空間デザインを多くの方々へご報告できることに感謝したい。

昨年の審査会までの流れから、社会性の高い作品に選考の軸足が移り過ぎているのではないかという意見を踏まえ、本年度はさらに創造性や意匠性をしっかりと判断していただける最終審査員を選任して臨んだ審査会となった。

本年度とくに印象深かったことは、外部空間とのつながりを重視し、外に開かれ、滲み出していくような空間デザインが多く選考されていたことである。受賞された作品の60%以上が何らかの形で外部空間とのつながりを大切に作品で、それらの半数は地方や都市の新しい街づくりに貢献している作品でもあった。時代の流れとして持続可能な街づくりが意識され始めたことによるのかは解らないが、魅力的な空間を追求するデザイナーたちには、これまでの物理的、思想的なデザインの境界を越えて、外部空間をも取り込み、大きく変貌し始めた感がある。これまでの外部空間とのつながりの範疇を超え、外部空間を内部空間のようにデザインし始める時代になってきたのかもしれない。

またそれらの作品の中には新しい取り組みとともにクリエイティブな作品も数多くあり、社会への影響も大きいと感じられた。もちろん作品の中には洗練された空間デザインとは言えないものの、挑戦的な新しい創造性などを評価された作品もあり、これからの空間デザインの広がりにつながるであろう。

最終審査会に選出された作品の中では空間の美しさを追求しきった作品は少なく感じたが、やはり美しい空間の力強い魅力は評価された。賞の選考にあたっては社会性や文化性、持続可能性など議論しやすいテーマに偏りがちであるが、言葉での表現が難しく議論になりにくい意匠性や創造性など、日本人独特の感性をつくり出す感動の部分など、短時間では議論しきれない作品を審査員の感性で共有していただけたことに感謝したい。「空間デザインをもっともっと研鑽していけ」「人々を魅了し、集わせ、新しい社会をつくっていけ」と囁く言葉が聞こえてくるような最終審査会であった。

route to root -retracing the story of down.- 上條昌宏

IoTを活用すれば、生産段階から最終の物流まで、ログをとったりトレーサビリティを確認したりすることが容易にできる昨今、このインスタレーションはさらに踏み込み、素材がどこから来て、どこへ向かうのかといったアパレル産業にとって欠かせない持続可能なプロセスを、幻想的なインスタレーションで見事に可視化する。密度の高い一連の展示は、ダウンジャケットから廻り、自然の恵みをもたらすグース・ダックに至るまでのプロセスを1本の「ルート」で表現。薄暗い室内に小さなダウンボールをつなぎ合わせてつくられた緩やかな導線に導かれるようにして、ダウンにまつわるリサイクルや環境に配慮した加工の取り組みなどを追体験していく。ダウンの道筋を示すその情景はちょっとした人の動きなどに反応するインタラクティブ性も備える。ダウンの生産背景を伝えることは、同時にダウン衣料が抱える問題点を見る者に伝えることでもある。人の動きなどに反応する作品は、正しい知識を発信することで、「人々とダウンの関

係性を変化させる」ことを意図しているようにも思えた。教科書的にプロセスの変遷や情報をたどるだけでなく、見る者の目を新たな世界に見開かせる意味でも、刺激的で生々しい魅力を発散している展示は、まさに「未来へつながるダウンのルーツをたどる旅」という印象にピッタリだった。見知らぬ地への旅に出かけたような空間構成の魅力が、ダウンへの思いをいっそう募らせたのではないだろうか。

おそいおそいおそい詩 遠山正道

日本空間デザイン賞とは、DSAとJCDが空間デザインに対して“与える賞”である。しかし本作は、われわれが気づきを“得る”賞になったと感ずる。すなわち、
●デザインされるべき物理的な空間は、ない
●空間が、文字あるいは文学によって成立している
●特定のデザイナーは不在だが、むしろ人の要素しかない
●費用対効果の指数があるならば、全応募作の中でもトップであろう
●日本建築学会賞では与えられ得ない

5年に一度のDocumenta15で提唱されたのは「Make Friends No Art」。権威ではない、一人ひとりのフラットなつながり。階級の権化のような欧米アートの世界最大の祭典においてすら、非中央集権のムードに満ちており、そのムードは他領域にも伝播されるだろう。

昨今の若者と対話をする、安定を求めるその背景にはソーシャルマインドがデフォルト化し、マッチョな商業主義に嫌悪すら抱いているように感ずる。資金をもつビッグクライアントが著名デザイナーに依頼するリッチな空間のことよりも、一人ひとりの足元の幸福や地球や全体や隣人のありさまに関心が向き、そしてそれに自らがどう関われるかを、リアルに求めているようだ。

市場を形成する生活者にも、生み出す側の内部にも、そのような若者がまもなく過半を占めることになる。2022という現在、そしてこれらに向けて、JCDとDSAはどのような“空間デザイン”を志向するのか。「おそいおそいおそい詩」は、一人ひとりのつながりと実行によって、今の足元からきつと先へ通じる一筋を照らしてくれた。ありがとう。

上勝ゼロ・ウェイストセンター 東 利恵

経済の成長期には、経済性、効率性、利便性などに目がゆきがちな都市化、都市化することが発展の理想のように見え、人々は都市に集中していった。しかし、20世紀末には日本経済の成長はペースを大きく落とし、また、一方で日本の人口が加速度的に減少してゆく。21世紀には社会全体の閉塞感や停滞感が蔓延している。このような状況下で地方の一町村であった上勝町はゼロ・ウェイストつまりゴミを生み出さないという決意を打ち出していた。地方の街にとっての豊かさなのか、目標と掲げるものは何なのか、都市にはできない方法を選択し、大きく舵を切ったのだ。その活動が上勝ゼロ・ウェイストセンターに結びついていくわけである。今までであれば嫌われていたゴミ収集場、処理場が新しい価値を生み出し、村民が運び込み、自分たちの手で分別し、処理をし、その過程で人のつながりを生み出す。小さなコミュニティの規模が今までにはなかった取り組みの実現を可能にしている。

建築家はこの取り組みをデザインするときに、ここで起きていることを理解し、この目的にあったハードの規模を大事にしなが、屋根下の空間とそれに囲まれた中庭によって居場所の快適さを大事にした空間の豊かさを生み出している。また、町の人たちがもち寄った建具などの素材をうまく建築空間に取り込むことによって、住人にとって身近な建築となり、プログラムを空間化した今にふさわしい秀逸な建築となった。上勝ゼロ・ウェイストセンターは地方のコミュニティの新しい方向の可能性を示唆するものとなっている。

route to root -retracing the story of down.- エキシビション、プロモーション空間 金賞 吉泉聡 / TAKT PROJECT



Grand Prix

- ◆所在地:東京都港区六本木
- ◆完成年月または展示開始日:2021-11-05
- ◆ディレクション:吉泉聡 / TAKT PROJECT
- ◆デザイン:吉泉聡,向文怡 / TAKT PROJECT
- ◆企画:山本真澄
- ◆企画:noisecc
- ◆テクニカルエンジニアリング:遠藤豊 / LUFTZUG
- ◆グラフィックデザイン:林琢真 / 林琢真デザイン事務所
- ◆主催:Double Eye International.co.Ltd
- ◆施工:博展
- ◆クライアント:ALLIED FEATHER+DOWN
- ◆撮影者:大木大輔

おそいおそいおそい詩 エンターテインメント&クリエイティブ・アート空間 金賞 高橋匡太 / 株式会社高橋匡太



Grand Prix

- ◆所在地:神奈川県老名市めぐみ町
- ◆完成年月または展示開始日:2021-11-21
- ◆ディレクション:高橋匡太 / 株式会社高橋匡太
- ◆デザイン:川口怜子 / 株式会社高橋匡太
- ◆プロデュース:山田正樹 / アートフロントギャラリー
- ◆プロジェクトマネジメント:須田禪 / アートフロントギャラリー
- ◆コーディネーション:龔珏 / アートフロントギャラリー
- ◆ポエトリーディレクション:松田朋春 / オプラー、グッドアイデア
- ◆詩:河野聡子,高塚謙太郎,中家津洋子,夏野雨,山田亮太
- ◆プロダクション:アートフロントギャラリー
- ◆クライアント:小田急電鉄
- ◆撮影者:下司悠太

上勝ゼロ・ウェイストセンター 公共生活・コミュニケーション空間 金賞 中村拓志 / 中村拓志&NAP建築設計事務所



Grand Prix

サステナブルデザイン賞

- ◆所在地:徳島県勝浦郡上勝町福原下日浦
- ◆完成年月または展示開始日:2020-05-30
- ◆ディレクション:中村拓志 / 中村拓志&NAP建築設計事務所
- ◆デザイン:中村拓志 / 中村拓志&NAP建築設計事務所
- ◆構造設計:山田憲明 / 山田憲明構造設計事務所
- ◆ブランディング・クリエイティブプロダクション・エクスベリエンスデザイン:トランジットジェネラルオフィス
- ◆施工:北島コーポレーション
- ◆クライアント:上勝町
- ◆撮影者:藤井浩司 / TOREAL

金賞 松屋の地域共創×「青森ねぶた」クリスマス2021
鈴木 健寛 / 松屋



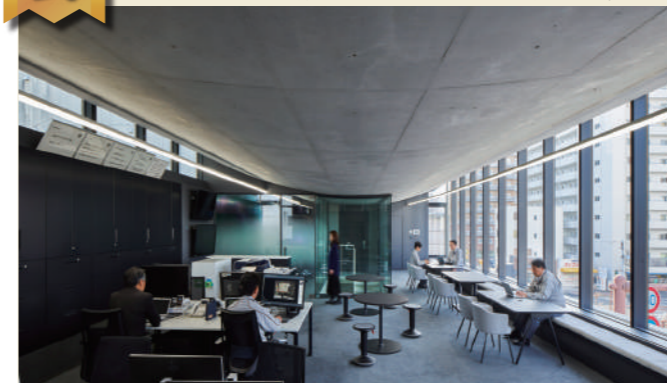
◆展示場所:松屋銀座 ◆完成年月または展示開始日:2021-11-10 ◆ディレクション:柴田亨一郎/松屋 ◆デザイン:佐藤卓 / TSDO ◆ねぶた制作:北村麻子 ◆制作ディレクター:津谷沙美/シーピーケー ◆吹き抜け空間デザイン:鈴木文女 / TSDO ◆ウィンドウデザイン:高橋祝子、高見明佳 / ノムラメディアス ◆プロダクション:シーピーケー ◆クライアント:松屋 ◆撮影者:守屋欣史、永禮賢

金賞 HIROPPA
元木大輔 / DDAA



◆所在地:長崎県東彼杵郡波佐見町湯無田郷 ◆完成年月または展示開始日:2021-10-01 ◆ディレクション:元木大輔 / DDAA ◆デザイン:元木大輔 / DDAA ◆建築設計:村井陸 / DDAA ◆建築設計:土井伸朗 / SOUP DESIGN Architecture ◆構造設計:金田泰裕 / yasuhirokaneda STRUCTURE ◆造園設計:山口勇介 / 西海園芸 ◆施工:上山建設 ◆クライアント:マルヒロ ◆撮影者:長谷川健

金賞 竹中工務店静岡営業所
上河内浩、小杉嘉文、西田順風 / 竹中工務店



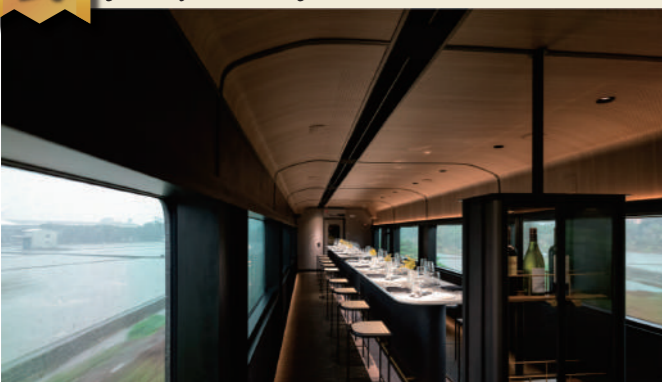
◆所在地:静岡県静岡市葵区昭和町 ◆完成年月または展示開始日:2021-10-31 ◆ディレクション:上河内浩、小杉嘉文、西田順風 / 竹中工務店 ◆デザイン:上河内浩、小杉嘉文、西田順風 / 竹中工務店 ◆照明デザイン:スタイルマテック ◆施工:竹中工務店 ◆クライアント:竹中工務店 ◆撮影者:藤井浩司 / TOREAL、内山雅人 / エスエス

金賞 住倉
小野良輔 / 小野良輔建築設計事務所



◆所在地:鹿児島県大島郡瀬戸内町 ◆完成年月または展示開始日:2020-10-24 ◆ディレクション:小野良輔 / 小野良輔建築設計事務所 ◆デザイン:小野良輔 / 小野良輔建築設計事務所 ◆構造設計:内酒島 / 内酒構造設計 ◆施工:アオイ・ホーム ◆クライアント:岸本卓 ◆撮影者:石井紀久

金賞 The Moving Kitchen
Johnny Chiu / JC Architecture



◆所在地:Taiwan ◆完成年月または展示開始日:2022-03-30 ◆ディレクション:Johnny Chiu / JC Architecture ◆デザイン:Johnny Chiu / JC Architecture ◆施工:Taiwan Rolling Stock Co., Ltd ◆クライアント:Taiwan Railways Administration ◆撮影者:Lee Kuo Min

金賞 reload
大堀伸 / ジェネラルデザイン



◆所在地:東京都世田谷区北沢 ◆完成年月または展示開始日:2021-06-16 ◆ディレクション:大堀伸 / ジェネラルデザイン ◆デザイン:大堀伸 / ジェネラルデザイン ◆建築設計:大堀伸、金子慎太郎、小山哲史 / ジェネラルデザイン ◆構造設計:我伊野威之 / 我伊野構造設計室 ◆プロデュース:関口正人 / Greening Co., Ltd ◆造園設計:齊藤太一 / Solso ◆施工:三井住友建設 ◆クライアント:小田急電鉄 ◆撮影者:阿野太

金賞 合宿所 yutorie
近藤尚 / ユトリエ



◆所在地:静岡県熱海市 ◆完成年月または展示開始日:2021-11-01 ◆ディレクション:近藤尚 / ユトリエ ◆デザイン:近藤尚 / ユトリエ ◆施工:睦月建築工芸 ◆クライアント:ユトリエ ◆撮影者:市岡祐次郎

金賞 藤田美術館
平井浩之 / 大成建設 一級建築士事務所



◆所在地:大阪府大阪市都島区網島町 ◆完成年月または展示開始日:2022-04-01 ◆ディレクション:宮本育美 / 大成建設 一級建築士事務所 ◆デザイン:宮本育美 / 大成建設株式会社 一級建築士事務所 ◆プロジェクトマネジメント:平井浩之 / 大成建設 一級建築士事務所 ◆建築設計:渡邊智介 / 大成建設 一級建築士事務所 ◆建築設計:宮本育美 / 大成建設 一級建築士事務所 ◆ランドスケープデザイン:山下剛史 / 大成建設 一級建築士事務所 ◆内装設計:会津寿美子 / トータルメディア開発研究所 ◆施工:大成建設 ◆クライアント:藤田美術館 ◆撮影者:伊藤彰 / アイフォト、左海一郎 / エスエス大阪

ショーウィンドウ&ビジュアルデザイン
空間 金賞
松屋の地域共創×「青森 ねぶた」
クリスマス2021
野老朝雄

コロナ禍においてこのような取り組みは後に振り返っても非常に大きな意義をもつと信じる。「ねぶた寄りのサンタクロース」と「サンタクロース寄りのねぶた」のパラメータがあるとすると、個人的には思い切りねぶた側に寄った作品も見たい。西洋文化圏での展示も可能であろう。続いていきますように。

ショップ空間 金賞
HIROPPA
遠山正道

私企業による開かれた公園のような「HIROPPA」。公共性と誘客の二兎を得るなら今後の良き手本となろう。商品も商業も、単にモノだけでは届かず、ストーリーや関係性が必要になっていく。コロナ禍ですます増えたECに対して、このような体験価値が力をもっていったほしい。アトリエ系の、いかにもDDAAらしいシャープなデザインに子どもが遊ぶ姿は羨ましく、生活者にとってのリテラシー醸成にもなるだろう。

食空間 金賞
The Moving Kitchen
小坂 竜

70年前の列車を動くレストランへと改装したプロジェクト。インテリア空間は食堂車の域を飛び越えて上質で美しく、キッチン、バー、ラウンジでの質の高い食事と車窓からの景色は特別な旅別を連想させる。このモビリティは台湾国土を一周するルートをもち、山側、海側それぞれの景観を最大限にゲストに堪能してもらうために、左右非

対称のデザインをあえて施している。食事と景観以外に、訪れる地方とのさまざまな交流そして経済的な成長にも貢献しているようだ。早期から空間デザイナー、シェフ、オペレーター、コンストラクターによるチームを編成し、さまざまなハードルを丁寧に克服した熱意とデザインは、古い列車のリユースの可能性、安全性を証明し、新たなモビリティビジネスの成功へと動き出している。

大規模商業空間(複合施設空間) 金賞
reload
湯澤幸子

下北沢のスケールに程よくなじむ商業施設空間である。周辺環境を分析し建築ボリュームと配置を丁寧にスタディーしている。大小さまざまな区画に分解され、新しく生成された抜け、路地裏、中庭、屋上には、植栽や人の居場所が随所に配されている。さらに余白を残すことで、人々のアクティビティを誘発する場を実現している。また集客に起因する住宅街への影響をふまえ、周辺部との地盤高低差部分に駐輪場を設けるなど、隙間や境界をデザインしている。周辺と適切に接続された持続可能なコミュニティの提案である。

サービス・ホスピタリティ空間 金賞
合宿所yutorie
山本尚美

最も度肝を抜いた作品の一つだ。古民家再生は昨今ポピュラーなデザイン手法だが、モルタルで家屋を半分埋没させるという大胆不道者に目が釘付けになった。まさしく作者の思う壺である。外装は「古き良き」を演出し、内装を近代化させる一般常識をままと覆させられた。宿泊施設はそのコントラストを極端に再現し、外壁のくたびれた

佇まいと内装のポストレトロ風の双方が強い個性を放っている。2棟がそれぞれ異なる趣をもちながら、存在している。これも作者の意図だろうか。

博物館・文化空間 金賞
藤田美術館
野老朝雄

魅力的なコレクションを列品するに値する緻密な設計と施工を伴う空間だと思う。とくに開口部の保存は非常に印象的だ。建築の記憶がこのように丁寧に記述されることは時間への敬意を、訪れる人々へ確実に伝えることとなる。現代/現在の建築は将来どのように保存され得るのかを考える。

オフィス空間 金賞
竹中工務店静岡営業所
野老朝雄

歴史あるゼネラルコントラクターの支署がこのような大胆な構造に攻め込む姿勢は素敵だと思った。この空間自体が雄弁に、BIMの取り組み等、設計過程の革新をプレゼンテーションするのであろう。空間を妨げる要素のない大空間での応用を見てみたい。

住空間 金賞
住倉
遠山正道

地域の歴史、風土を取り込みながらもシンプルでモダンな住宅となった。1階の土間、掃き出し窓としての縁側、巨大な小屋裏。奄美大島南部に位置し決して利便性はよくない立地だが、奄美の自然と文化、そしてこの小さくて大きな空間はわざわざここに来させる魅力と力を持っているだろう。少なくとも、私はこの小屋裏で目覚めてみたい。

上位4製品及び理事長審査評

JCD 理事長 窪田 茂

Grand Prix 1位 **KIBAN LIGHT SERIES**
株式会社水田製作所

この照明は、銅板を基盤として使い、配線の無いシンプルで素朴な照明器具である。これを製作した水田製作所は、基盤のアッセンブルをする会社で、照明メーカーではない。だからこそ、このKIBAN LIGHT SERIESが生まれたと言っても過言ではないだろう。

デザインは正にミニマル。薄い板状のプレートと細い支柱のみ。天板の下側に基盤で見る回路とLED素子がついている。その名の通り、基盤が傘となって下方へ光っている。これは今までにないタイプのプロダクトではないだろうか。素材の銅もクリアを掛けなければ経年変化をし、風合いのある銅になっていくそうだ。ミニマルながら素材の特徴をうまく活かしたプロダクトである。しかし、その完成度はもう一歩という感じではあるが、未来への可能性を強く感じるプロダクトであり、その期待感が今回の受賞に繋がったのだろう。ぜひ、さらにプロダクトを進化させ、より美しく賢さを感じるプロダクトに育てて頂きたいと願います。

審査員 JCD理事長 窪田 茂



Second Prize 2位 **DNL 細型フレキシブルLEDモジュールFXYシリーズ (FXY-LED, FXT-LED)**
DNライティング株式会社

設計者の多様な要望に応じてフレキシブルに形を変え、意図した形状に美しく収まってくれるこのLEDモジュールは、作り手の想像力を大きく膨らませる力を持った製品である。細かいピッチで切断可能な為、64種もの豊富な長さバリエーションを作り出し、施工性にも大変優れている。細部の造り込みも美しく、高い解像度を持った開発チームの妥協のない取り組みの賜物であると感じる。精緻なディテールと、様々な場所にそれを持ち込むことができる高いユーザビリティの双方を兼ね備えた製品計画が高く評価されました。

ゲスト審査員 倉本 仁



Second Prize 2位 **and-on (アンドオン)**
株式会社ワイ・エス・エム

まず一見して、絵力があると思いました。それはもちろんデザイン力でもありますが、そのイメージを壊さずきちんと製品に落とし込んだ、ワイ・エス・エムさんの技術力や努力の賜物と思います。伝統工芸の小川和紙を使用した柔らかくておやかな灯りを、ビス一つなく仕上げられているところも素晴らしいです。縦置きの際、不安定にならない厚み35mmというギリギリのラインを攻めた潔さも感じました。そこにはもちろん、フレームの少しの歪みも許さない技術力の高さが伺い知れます。今回初めて審査をさせていただきましたが、新しい技術を取り込んだハッとさせられる製品や、妥協しないものづくりの姿勢を感じさせる企業が多く、私自身大変勉強になりました。素敵な機会を頂きありがとうございました。

ゲスト審査員 白木ゆみ香

サステナブルプロダクト賞 **スキャンディアモス**
and C株式会社

サステナブル・プロダクト賞に輝いた「スキャンディアモス」は、評価に値する要因として2つが挙げられるだろう。一つはその成り立ち。スキャンディナビアの森でトナカイの餌として自生していたモスが近年、トナカイの減少により消費されず増殖し、木の成長、森の維持を妨げる存在になってしまった環境問題の解決であり、もう一つは、製品として多くの優れた性能を持っていることにあると思う。調湿効果・耐火性能・吸音機能・防音機能・脱臭機能また口に入れても害のない安全性などだ。ましてやメンテナンスフリーで半永久的に使用できるのはまさに優れた持続可能な商品だと思う。そして何より自然由来のこの製品は人々の日々の生活に精神的な潤いをもたらすものではないかと考え、このような問題解決しながらも製品が開発される循環こそがこれからも大切なことなのではないかと思う。

審査員 JCD理事 折原美紀



● 新入会員紹介 ●

盛世 匡 Mori Seiki | Sutudio ARRT 設計事務所 (香港) / 株式会社アルテ・アバン

2007年Studio ARRTを香港に設立。香港、中国、日本にて、空間デザイン、イベント企画・運営に携わる。2021年より大阪本社の(株)アルテ・アバンにも所属。大阪を拠点に国際色豊かで多様な表現の設計活動に取り組む。近年ではアジアと日本を繋げるイベントや展示企画など、日本の創造的デザイン、もの作り文化を伝えるディレクション活動に携わる。

studio ARRT 亞洲設研工作室
 香港：香港九龍旺角塘尾道66-68號 福強工業大廈A座3樓5室
 TEL.+852-9233-3219
 大阪：大阪市北区天神橋7丁目12-4 グレーシィ天神橋ビル2号館・別館
 〒531-0041 TEL.06-6690-0227
<https://www.facebook.com/studioarrt>

林野 友紀 Rinno Yuki | 株式会社 丹青社

神戸三宮阪急ビル SHIROYAMA HOTEL kagoshima セラーN
 SHIROYAMA HOTEL kagoshima Suiteroom Goconc-京都リサーチパーク

ホスピタリティ空間の設計を中心に、ホテル、ミュージアム、複合商業施設、駅施設などのパブリック性の高い空間から、専門店、レストランまで、幅広く空間の企画、ディレクションおよびデザイン業務を行っています。

Tanseisha
 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB24F
 TEL 06-6377-5984
 Mobile - 09090027919
 yrinno@tanseisha.co.jp

つくるを 創り 続けて 繋がってゆく。

ものづくりする人を、創り(育成)続けて百余年。
 その信頼と実績が、社会との強い繋がりをつくっている。
 そして、この想いは未来へと。

学校法人 修成学園
修成建設専門学校
 一級建築士受験資格認定校 職業実践専門課程認定校

- 建築学科 ■建築CGデザイン学科 ■空間デザイン学科
- 住環境リノベーション学科 ■土木工学科
- 建設エンジニア学科 ■ガーデンデザイン学科
- 専科 2級建築士科 ■専科 1級建築士科

2022 JCD Kansai クリスマスイベント お久しぶりのメリークリスマス!!

統括委員長 斉藤 俊二

アフターコロナ?の開催として、タイトルの通りで本当に久しぶり(3年ぶり)のリアル開催となったクリスマスイベントとなりました。先に感想から申し上げますと、とても人間味あふれ、参加者皆の表情を肌で感じ、常に笑顔であふれ返った本来のコミュニケーションが図れました。

序盤は、賛助会員による商品PR会として、参加企業11社による、大型スクリーンにて内容を投影し、身振り手振りでのPR会となりました。もう慣れてしまった「オンライン」では伝えきれない臨場感、世界観がとても懐かしくもありましたが、改めてプレゼンテーションへの大切な距離感や会場空間に流れた心地よい空気をリアルで感じ、PR素材・内容の持つ大切なコンセプトが直接伝わってきました。次いで、昨年度からの新入会員のリアル発表の場がようやく持てたので、デザイナーとして活躍中の栗元さん、倉知さん、中島さん、山田さんに実績資料を投影して貰いながら自己紹介をして頂きました。会場の皆さんが食い入る様に前のめりに聞いていたのがとても印象的でした。

中盤は、久々の「乾杯!」から、JCD創立60周年となる22年度のイベント「そもそも大阪デザインってなんやねん」「タカハシツキイチ」のアーカイブ放映を行い、しばしコミュニケーションタイムとなりました。もう会話が止まることなく、自然と数名の輪が出来て有意義な意見交換会となりました。少し課題としては、アーカイブ放映にあまり目がいかず、リアルのおしゃべりが活発になり過ぎてしまった感じでした。(反省)

準備してたケータリング式での食事、飲み放題のドリンクバーはひっきりなしにフル稼働となり、3年間の想いやこれからの商空間デザインの在り方な

日時：2022年12月14日(水) 19:00～21:00
 場所：遠藤照明 大阪ショールーム
 参加者：JCD委員会メンバー：中村支部長、東理事、高橋、藤村、鍵谷、白井、栗元、倉知、村田、斉藤、福本(事務局)及びJCD正会員、一般参加者62名
 賛助PR企業(11社)：(株)日東製陶所、(株)サンゲツ、東リ(株)、リビエラ(株)、富士工業販売(株)、エスケー化研(株)、(株)サンワカンパニー、(株)ニッシンイクス、旭コンステック(株)、(株)maristo、(株)遠藤照明



ど、デザイナー目線や賛助会員様のプロダクト視点などのやり取りが、会場のあちらこちらから聞こえてきました。もちろんJCDデザイナーと賛助会員との商談も活発に行われていました。

そして終盤、クリスマスイベント恒例のJCD WEST BANDによる「ライブ」で締めくくりました。ヴォーカル中村支部長のあの「永ちゃんボイス」を堪能しながら、ライブハウスとなった会場が熱気の渦となり、参加者のヴォルテージもMAXでした。岡部会員のドラム、藤村会員のサクソもすごくカッコ良かったです。本当の意味で久しぶりに【五感】を熱く感じられたイベントでした。



ケータリングでのお料理とドリンクバー



中村支部長 開会挨拶

斉藤統括委員長による乾杯!

賛助会員PR会



中島裕子さん



栗元奈緒子さん

新入会員 自己紹介



山田智美さん



倉知優歌さん



バンドメンバーと参加者が一体となった熱狂ライブ

第14回大阪市あきないグランプリ

評議員 山田 悦央

第14回大阪市あきないグランプリは消費者と一体となった街づくり地域づくりをめざし、大阪の商店街(市内320商店会、11,400の商店会員)で構成した大阪市商店会総連盟がメイン事業として行っている。優良店舗コンクールをリニューアルし、現地審査を実施。また、経営方針等をヒヤリングし、日頃の商い状況を覆面調査員が調査して判定を行っている。

各商店会の推薦を86店舗から第1次審査(書類審査)そして第2次審査(臨店審査)を経て最終本審査を実施しました。

我々JCDは最終審査の専門委員として東理事、山田評議員が参加して各賞を選びました。

賞としては大阪市長賞・大阪商工会議所会頭賞・大阪市商店会総連盟理事長賞・JCD賞・DSA賞・OsakaMeto賞・関西エアポート賞の7店舗の受賞者を選びます。その結果、本年のグランプリ(大阪市長賞)は「北極星 心齋橋本店」に決まりました。



受賞者の松岡千秋さん(グレイス株式会社)、リブ株式会社と中村支部長

日時: 2023年1月12日(木)
場所: ホテルロイヤルクラシック大阪
最終審査員: 東理事、山田評議員
表彰式参加: 中村支部長

またJCD賞は、天神橋筋1丁目の「台湾菓子 万華」が受賞しました。

2023年1月12日にホテルロイヤルクラシック大阪で表彰式が開催され、JCDからは中村関西支部長が「台湾菓子 万華」様にJCD賞を授与しました。

万華さんの評価としては商品力としてこだわりの商品があり、品揃えも豊富でファサードデザインまたインテリアデザインにこだわり商店街のイメージを代表する店となっています。

皆さんも大阪天満宮の近くなので一度見に行かれたらどうでしょうか。



空間プロデュース展2023

理事 東 潤一郎

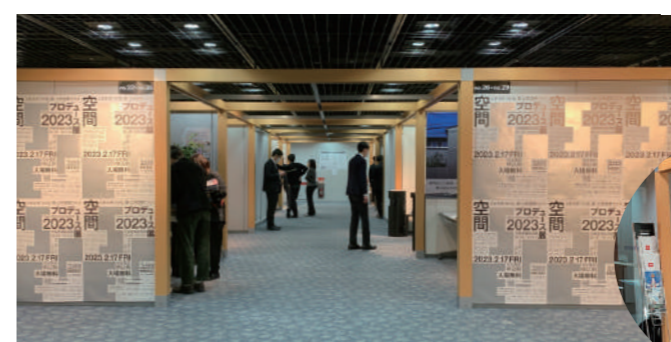
2023年2月17日、メビックと大阪産業創造館の共催で、展示会「空間プロデュース展2023」が大阪産業創造館3階・4階にて開催されました。

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、人々が以前より空間づくりに対して敏感になり、店舗、病院、オフィスなど、人が集まる様々な場面での空間のあり方も変わりました。また、ウィズコロナ・アフターコロナに向けて、人と人とのリアルな交流の重要性が再認識される今、「空間づくり」に対する人々の意識や「人が集まる空間のあり方」の変化をどうとらえるかなど、新たな「場」づくりの課題が生まれています。

そのような「人々が集まる場所での空間づくり」に悩んでいる企業や事業主に、さまざまな空間をプロデュースできるクリエイター・企業が出展し、多種多様な空間づくりを提案する展示会でした。

出展者は、商空間のデザイナー、建築家、内装設計施工業者、メーカー、製作所など多彩な顔ぶれで、JCD関西支部正会員、賛助会員の出展も数ブースありました。

展示会来場者数は、第1部:予約163名+当日3名=166名、第2部:予約95名+当日10名=105名、第3部:予約140名+当日12名=152名、合計423名となり、絞ったターゲットが対象の第1回目の開催でしたが、盛況な展示会となりました。



日時: 2023年2月17日(金) 10:30~16:30
場所: 大阪産業創造館 3・4階
来場者数: 1部・2部・3部 合計423名

JCD関西支部は、メビックからの依頼で、DSA(一般社団法人日本空間デザイン協会)関西支部と共同ブースを出展致しました。

JCD+DSA共同ブースの展示は、日本空間デザイン賞2022の受賞作品のパネルをメインに展示、他に会員2名をピックアップし、その作品を展示致しました。DSAは「デザインのがっこう」のワークショップパネルの展示をしました。

ほとんどが商談ブースの中で、我々のブースはパネル展示メインとなりましたが、受賞作品に興味を持って頂き、多くの方に足を止めて頂き、JCD kansaiの冊子も沢山お持ち帰り頂きました。

来場者からの質問では「JCDって何ですか?」というものが一番多く、社会的認知の向上が大きな課題であることを実感致しました。

この展示会は来年も開催予定とのことですので、次回も出展し、JCDの認知向上の活動の場として有効活用できればと思います。

また、今回は急遽の準備で会員の作品紹介が2名でしたが、より多くの会員を紹介できれば出展の意義も更に大きいかと思います。

JCD賞を受賞した「台湾菓子 万華」





はじめよう!

グリーンライフポイント
GLP
 アクション

脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換を応援

エシカルな選択で、未来を変える。

窯業系サイディング業界で初めて、ニチハのエコ外壁材

「オフセットサイディング(センチュリー耐火野地板を含む)」が採択されました。



グリーンライフ・ポイントとは、環境省が支援する【食とくらしのグリーンライフ・ポイント】推進事業で、消費者の環境に配慮した行動に対して、企業や自治体等が「ポイント」を発行する取組です。



素晴らしい人間環境づくり

ニチハ株式会社

<https://www.nichiha.co.jp/>

お客さま相談室 TEL(052)220-5125

【受付時間】月～金 AM9:00～PM5:00(土・日・祝日・年末年始・お盆休みを除く)

本社/〒460-8610 名古屋市中区錦二丁目18番19号 三井住友銀行名古屋ビル

Instagram
始めました



NICHHA_OFFICIALJAPAN

ニチハHPは
こちら

